発行元
神戸交通労働組合

〒653-0004
神戸市長田区四番町2-1-2
神戸交通労働組合会館
TEL　078-575-6712
FAX　078-575-3848

編集発行人
佐藤　秀樹

毎月15日発行
定価１部10円
組合員の購読料は組合費に含む

自治労　都市公共交通評議会　第５回交通政策研究集会

さまざまな課題を共有しながら、『公共交通の価値』を再確認

２０２５年５月14・15日の２日間、自治労福岡県本部において、自治労都市公共交通評議会第５回交通政策研究集会が開催されました。この集会では、人材確保・制度改革・地域再設計を軸に、公共サービスの最前線を担う組合員が、政治・現場・地域をつなぐ議論を交わしました。

主催者挨拶を行う福田議長

１日目は、佐田氏（京交）の司会で進行し、主催者を代表して福田議長（東京交通）から、「人手不足や高齢化の中、公営交通は『あって良かった』と再評価されているが、現場は極めて深刻な状況である」と挨拶がありました。続いて、来賓挨拶として、森下局長からは、「交通は国民の移動の自由を保障する重要なインフラ。政治との連携なしに制度は変えられない」との挨拶がありました。

講演では、島田教授より、「交通はナショナルミニマムとして制度設計が必要である」と述べられ、地域負担型の「交通税」の導入を含めた財源のあり方に言及し、持続可能な制度づくりに向けた視点が共有されました。

また、各地の実践事例も紹介されました。長崎市では、県営バスと長崎バスが重複路線を整理し、共同経営による効率化と利便性の両立を実現し、「競争から“共走”へ」と舵を切った先進的な取り組みが注目されていることや、滋賀県では、宿泊税のような方式で公共交通を支える「交通税」の導入に向けた議論が始まっており、住民も巻き込んだ新たな支え合いの形が模索されていることなどが紹介されました。

一方、交通業界の深刻な課題として、若年層の採用難も改めて浮き彫りとなりました。「長時間・低処遇・不規則勤務」といった要因で若者の志望が減っており、「希望した日に休めない」という現場の声に応える生活支援型の職場づくりが急務とされました。

また、政治との関係性についても議論が広がりました。組織内候補の得票は、組合の力の証明であり、国会における影響力にも直結します。「票の力が政策を動かす」ことを改めて再確認し、７月の参院選に向けた最大限の取り組みが呼びかけられました。

今回の研究集会は、『公共交通の価値』が再び浮き彫りになった場でした。しかし、それを守るための制度や人材は決して十分とは言えません。全国の現場と政治・制度を結ぶ橋として、労働組合の果たすべき役割は、かつてなく重みを増しています。

２日目は、バス部会として、鹿児島、京都、青森から、鉄軌道部会として、大阪、熊本、東京から単組報告が行われました。それぞれの地域で直面する課題に対し、現場がどのように対応し、運動を展開してきたのかが具体的に語られました。

【貸切バス廃止を阻止】

鹿児島交通労組　池田自動車部長

鹿児島では、路線バスへの人員集中を理由に貸切バスの廃止方針が突然示されました。貸切バスは、市内観光や学校行事など市民サービスの一端を担っており、路線バス乗務員が兼務する体制で運行されていたため、廃止による効果は限定的。組合は条例否決を目指して市議会に働きかけ、与野党を超えた協力を得て条例案は否決されました。これは実に49年ぶりのことであり、「住民サービスの担い手」としての公営交通の意義を訴えた成果といえます。

【観光特急バスと人員闘争】

京都交通労組　杉本自動車部長

観光客増加による混雑対策として導入された「観光特急バス」について、組合は導入の前提として人員増を強く求めてきました。２０２２年から観光需要の回復を見越して採用を求め続けましたが、当局はなかなか応じず。これに対し、組合は臨時運行協力の拒否などを通じて闘争を展開し、その結果、大幅な人員補充が実現しました。「労働組合が声を上げなければ人は増えない」という教訓を再確認する闘いとなりました。

【記録的大雪と市バスの奮闘】

青森交通労組　奥谷副執行委員長

青森では年末年始の大雪により、最大１３９ｃｍの積雪を観測。道路の除排雪が追いつかず、多数のバスがスタックし、最大３時間遅延する路線も発生しました。組合は、事前の除雪要請や市との連携強化を求め、また高齢乗務員の運転適性問題についても課題提起。市営バス１００周年を目前に控え、安全運行体制と担い手確保の両面での取り組みが進められています。

【共通する課題と全国的な連帯】

報告を通じて浮かび上がったのは、いずれの地域でも「人手不足」と「公共交通の役割の軽視」に直面しているという点です。経営効率優先の政策の歪みに対し、地域と職場に根ざした粘り強い運動が重要であることが改めて示されました。全国の仲間との連帯を強めながら、持続可能な公共交通の実現をめざしていかなければなりません。

くらしをささえる地域公共交通確立キャンペーン 2025春

２０２５年５月30日、神戸市営地下鉄三宮駅構内および周辺バス停にて、自治労兵庫県本部都市公共交通評議会による「くらしをささえる地域公共交通確立キャンペーン２０２５春」の街頭行動が行われました。

三宮駅バス停付近で街頭行動を行う組合員

この日は神戸交通労働組合・伊丹交通労働組合・県本部都市交評事務局の19名が参加し、市民に向けて公共交通の重要性を訴えました。配布されたティッシュには、公共交通の課題や意義を伝えるメッセージが添えられており、多くの市民の目を引いていました。

また、今回のキャンペーンでは、都市交評オリジナルのビブスを着用して取り組み、視覚的にも統一感ある行動となりました。市民からは「普段利用している交通の現場がどうなっているのか初めて知った」という声も寄せられ、今後の活動への手応えを感じる一日となりました。

組合員資格の公示

２０２５年５月期に組合員資格の喪失を確認された方について公示します。（敬称略）

壽　健次（再任用）

自治労兵庫県本部 2025反行革組織集会

２０２５年５月12・13日の２日間にかけて、加西市の「いこいの村はりま」において、自治労兵庫県本部　２０２５反「行革」組織集会が開催され、神戸交通から２名が参加しました。

組織集会には県内各単組の執行委員を中心に約60名が参加し、講師として広島県本部の藤井執行委員長から記念講演が行われました。記念講演では、「合理化攻撃に抗するための効果的な取り組み」と題して、福山市職労連合での取り組み事例をもとに、賃金・労働条件の改善の取り組みや職場を守る取り組みなどのお話がありました。

自治労大都市共闘都市交通部会第10回総会

２０２５年６月６日に、仙台市のＴＫＰガーデンシティにおいて、自治労大都市共闘都市交通部会の第10回総会が開催されました。

活動報告を行う五百旗頭事務局長（神交）

記念すべき節目の年に、全国から都市交通の仲間が集まりました。開会にあたり、梅谷部会長代行（横浜交通）は「改善基準告示や人員不足に向き合うとともに、夏の参院選に向けた政治闘争を強化しよう」と挨拶しました。その後、青山事務局長（自治労本部）や「岸まきこ」議員からの激励メッセージも紹介され、組織の一体感を確認する場となりました。

総会では役員体制の刷新や分担金に関する議案が全会一致で承認され、新たに神戸交通から奥委員長が事務局長に就任し、最後は団結ガンバロウで締めくくられ、今後の活動への決意を新たにしました。